

## 123) 旅路

恋することに躓<sup>つまづ</sup>いて 信濃の旅に出てみると  
過ぎた季節の安らぎが わたしの胸によみがえる  
4歳だったあのころは 苦しみなんて知らなくて  
父と一緒に海辺まで 歩いて行くのが好きだった

大きな腕にすがるように 父の温もり確かめた  
ラッキー連れて砂浜を 走っていると辛いこと  
悲しいこともいつの間に 嬉しいことに変わった  
恋することに躓いて 父の温もり探してる

愛することが苦しくて 小さな旅に出てみると  
信濃の春は杏<sup>あんず</sup>花<sup>ぼな</sup> ただはらはらと散っている

生きてくことが悲しくて 信濃の旅に出てみると  
川<sup>かわ</sup>面に揺れる赤い燈<sup>ひ</sup>に 母の面影よみがえる  
母の背中は温かく 甘い香りに包まれた  
このままずっとまどろんで 過ごせるものと思ってた

9歳の時母が死に 幼い夢は砕かれた  
母が歌ったあの歌は 忘れな草の花の歌  
いま口ずさむこの歌に 母の優しさ思い出す  
生きてくことが悲しくて 母の背中に帰りたい

愛することが苦しくて 小さな旅に出てみると  
信濃の春は千曲川 たださらさらと流れてる